

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56—161969

⑪ Int. Cl.³
B 65 D 88/12
88/16
88/54

識別記号

庁内整理番号
2119—3E
2119—3E
2119—3E

⑬ 公開 昭和56年(1981)12月12日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ フレキシブルコンテナの内容物排出方法

① 特 願 昭55—65834

② 出 願 昭55(1980)5月17日

⑦ 発 明 者 森山武克

大阪市此花区島屋1丁目1番3
号住友電気工業株式会社大阪製
作所内

⑧ 発 明 者 五十嵐賢治

大阪市此花区島屋1丁目1番3
号住友電気工業株式会社大阪製
作所内

⑨ 発 明 者 富田和一

⑦ 発 明 者 白藤孝弘

東京都大田区東馬込1丁目37番
4号日本物流株式会社内

⑩ 出 願 人 住友電気工業株式会社

大阪市東区北浜5丁目15番地

⑪ 出 願 人 日本物流株式会社

東京都大田区東馬込1丁目37番
4号

⑫ 代 理 人 弁理士 吉竹昌司

明 細 書

1. 発明の名称

フレキシブルコンテナの内容物排出方法

2. 特許請求の範囲

(1) 主体の可撓性材料製袋状体内にその袋状体内を2室に変位し区切る可撓性材料製隔膜を設け、隔膜により変位し区切られる一方の室は注排口を設けて内容物用室とし、他方の室は注排口を設けて加圧用室とし、一方の室からその注排口を介して内容物を排出させる時、他方の室にその注排口を介して気体又は液体を注入し内容物に隔膜を介して加圧することを特徴とするフレキシブルコンテナの内容物排出方法

(2) 主体の袋状体内にそれを上下に2分割する位置に反転可能な隔膜を固定することにより主体の袋状体内にその袋状体内を上下の2室に変位し区切る隔膜を設け、下の室を一方の室とし、上の室を他方の室とする特許請求の範囲第(1)項記載のフレキシブルコンテナの内容物排出方法

(3) 主体の袋状体内にこれと同じような形状の補助の可撓性材料製袋状体を入れ互の注排口部分で補助の袋状体を主体の袋状体に固定することにより主体の袋状体内にその袋状体内を内外の2室に変位し区切る隔膜を設け、外の室を一方の室とし、内の室を他方の室とした特許請求の範囲第(1)項記載のフレキシブルコンテナの内容物排出方法

3. 発明の詳細な説明

本発明はフレキシブルコンテナの内容物排出方法に関するものである。

フレキシブルコンテナはゴム引布等可撓性材料製の袋状体に注排口(注入排出口)を設け、袋状体内に液体、粉粒体等内容物を入れて輸送或いは貯蔵等するものである。

この種フレキシブルコンテナに於いて内容物の排出は一般にサクシヨンポンプによつてゐる。しかし乍らサクシヨンポンプだけでは内容物特に高粘度液体の排出に時間がかかる。

本発明はこの点に鑑み排出容易な方法を提供す

るものである。以下例示図面に就いて本発明を詳細に説明する。

本発明に於いては第1図に示す様にゴム引布等可撓性材料製袋状体(1)内に上下に2分割する位置に反転可能な可撓性材料製例えばゴム引布製の隔膜(2)を接着固定している。この隔膜により変位2分割される下の室には内容物注排口(3)を設け内容物用の室とし、上の室には加圧用注排口(4)を設け加圧用の室とする。

上記に於いて下の室に充填されている内容物例えば高粘度液体(5)を排出する場合サクシヨンポンプだけでは排出時間が長くなり非常に効率が悪い。そのため隔膜により区切られた上の室にその注排口より気体又は液体を注入し内容物の排出を促進させる。その時内容物は隔膜により上記気体又は液体と分離されてため内容物の汚染はない。

なお上記サクシヨンポンプは例えば注排口(3)に設置したもの、又上記加圧のためのポンプは例えば上部注排口(4)に設置したものをを用いる。又隔膜としては前記の外主体の袋状体と同一形状の補助

の袋状体を主体の袋状体内に入れ、それらの注排口(3)の部分でこの補助袋状体と主体の袋状体を固定し設け、主体の袋状体内を内外の2室に変位し区切るようにしてもよい。なおこの際上部注排口(4)の部分では補助の袋状体と主体の袋状体を固定しない。

以上の様な本発明の方法によると下記の様な利点がある。即ち隔膜によりフレキシブルコンテナは2分されており内容物の充填されていない室に気体又は液体を注入し内容物を加圧している。従つて内容物例えば高粘度液体の排出がそれを汚染、変質させることなく短時間で行える。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の方法を説明する図であつて、内容物充填時のフレキシブルコンテナの縦断面例図である。

- (1)・・・可撓性材料製袋状体、
- (2)・・・可撓性材料製隔膜、
- (3)・・・内容物注排口、
- (4)・・・加圧用気体又は液体注排口、

(5)・・・内容物

代理人 弁理士 吉 竹 昌 司

図 1

